



部会だより

コロイドおよび界面化学部会 令和6年度 部会各賞受賞者の紹介

はじめに

コロイドおよび界面化学部会では、当該分野で顕著な業績をあげられた研究者・技術者を表彰するために Lectureship Award (LA), 科学奨励賞および技術奨励賞の各賞を設けております。令和6年度の受賞者について以下に紹介します。

Lectureship Award

LA は、部会のさらなる発展と活性化に寄与していただくため、当該分野で著しい活躍をされている著名な研究者あるいは将来の活躍が期待される研究者に授与されます。本年度の受賞者は、次の1名の先生となります。

・ Bernard Paul Binks 氏 (University of Hull, UK)



Bernard Paul Binks 氏

Binks 教授は、特に流体界面におけるコロイドサイズの微粒子の特性と挙動に関する研究において優れた成果をあげられてきました。微粒子と界面活性剤分子との類似性と差異に注目し、微粒子が流体界面に対して示す濡れ性が微粒子によるエマルションや泡の安定化における決定的な因子であることを明らかにされています。また、近年では、Pickering エマルションを利用した応用研究にも熱心に取り組んでおられます。

科学奨励賞・技術奨励賞

科学奨励賞と技術奨励賞は、当該分野

において顕著な活躍をされている若手研究者を表彰し、さらに先導的な研究への発展を奨励することを目的としております。

科学奨励賞は、アカデミアに所属する若手研究者を対象としており、本年度は次の2名の先生に授与されます。

・ 安原主馬氏 (奈良先端科学技術大学院大学)



安原主馬 氏

安原先生は、脂質膜に作用して働く生体機能性バイオメティック高分子を創出する研究を展開されてきました。細胞膜に作用する生理活性高分子のデザインと作用機構の解明、脂質ナノディスク技術の開発、有機-無機ハイブリッド構造を有する脂質分子集合体の形成技術の開発など、新規的でオリジナリティーにあふれた研究を推進されています。

・ 赤松允顕氏 (鳥取大学)



赤松允顕 氏

赤松先生は、界面で形成される超分子会合体や集合体を駆使した高次分子機能の発現と応用に関する研究に精力的に取り組んでされました。水/固体界面におけるアニオン- π 相互作用の発現と界面機能の制御法の構築、気/水界面の単分子膜を用いた可逆的なアニオン捕捉の制御、水中での高速光応答性分子集合体の構築など、

独自の着眼点やアイデアに立脚した研究を展開されています。

また、技術奨励賞は、企業の若手研究者・技術者を対象としており、本年度は次の1名の方に授与されます。

・ 振角一平氏 (花王株式会社)



振角一平 氏

振角氏は、バイオフィルムの形成制御に関連した研究で優れた成果をあげてくれました。バイオフィルム形成過程に対するタンパク質吸着の影響の解明や生成抑制技術の開発、形成過程追跡のための解析技術の開発、界面活性剤を用いた殺菌能の評価と作用機序の解明など、学術研究と企業での応用展開を橋渡しする優れた研究を積み重ねられています。

おわりに

受賞者の先生方には、9月に東北大学で開催される第75回コロイドおよび界面化学討論会において受賞講演をしていただく予定になっておりますので、ぜひご聴講下さい。また、令和7年度の各賞の募集も実施いたします(詳細は部会ホームページをご覧ください)。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

〔副部会長・賞選考委員長 飯村兼一 (宇都宮大学)〕

© 2024 The Chemical Society of Japan